

堺市博物館基本構想

1. 序

堺は、きわめてすぐれた文化的伝統をもった都市である。

百舌鳥古墳群に代表される古代の堺は、日本文化のあけぼのの地とよぶのにいかにもふさわしい。中世の堺は、商工業と自治の都市として繁栄し、これになった町衆たちの文化サロンは、わが国の都市文化史に輝かしい1ページを加えた。近世から近代にかけての堺は、中世の華やかさこそないが、周辺農村との文化交流を深めるなかで、大都市大阪とは一味ちがう独自の庶民文化を定着させた。時はうつり人はかわっても、個性あふれる堺文化を創造してきた文化的伝統が、そこに息づいている。

いま、堺をとりまく文化状況には、まことにきびしいものがある。「都市化」現象がかつてない規模で生活空間を変貌させ、その結果、文化遺産の散逸が加速度的にすすんできた。加えて、市民の多くは、郷土の歴史と伝統に対する誇りを、ともすれば見失いがちになっている。反面、技術革新による余暇時間の飛躍的拡大が、知的情報とアイデンティティへの要求をますます高らしているのも、また事実である。ここに堺の文化的伝統を回復することが、すぐれて今日の課題となっている所以がある。

時あたかも「物から文化へ」の発想の転換、「地方文化」の再評価がさげばれている。我々はどうしたなかで、堺文化の伝統をうけつぎ、さらに都市文化創造の核としての役割を自覚し、新しい型の都市博物館をめざさなければならない。

2. 目的と性格

博物館は堺を中心とした郷土の歴史、芸術、考古、民俗、産業などに関する文化資料を調査、収集、保管し、研究、展示、情報提供を通じて、市民の生涯学習と文化の継承発展に資するとともに、歴史と伝統をもつ堺市民としての連帯意識を培うことを目的とする。

以上の目的にもとづいて、基本的性格をつぎの4点に集約する。

①博物館は市民の文化の広場である。

堺衆の文化サロンの伝統を現代社会によみがえらせ、市民の自主的参加と自由な交流によって、堺文化の継承と発展をめざす、新しい都市の文化センターとする。

②博物館は市民の学習の場である。

博物館の「顔」ともいえる展示は、常設展と特別展を併用し、さらに知的情報提供を中心とした文化事業を重視して、市民の生涯学習の場とする。

③博物館は都市文化研究の核である。

自由都市堺の都市的伝統をひきついで、堺を中心とした都市文化の研究センターとし、ひろく館外の研究者にも参加を求めて共同研究をすすめる。

④博物館は市民の文化遺産の庫である。

郷土の文化遺産の散逸を防ぎ、豊富な内容と地域的特色をそなえたコレクションとして充実をはかり、さらに未来への遺産としてこれを伝えていく。

3. 当面の事業概要

■展示事業

(ア)常設展示は、資料展示、映像展示の2つに大別できる。

資料展示は、原始・古代から現代に至るまでの堺の文化と生活の諸相を、単に郷土自慢に終ることなく、広い視野のもとに位置づけ、その歴史の流れを資料を中心に示す。

映像展示は、館に収蔵できない資料の紹介も含めて、堺にちなんだ番組を映像化したもので、入館者の要求に従って自由に選択できるよう、新しい装置の開発も含めて検討する。

(イ)特別展示

堺を中心としたこの地域の歴史や風土への理解が深められるようなテーマを企画し、内外のすぐれた文化財を一堂に集めて一定期間展観する。当面春秋の2回開催をめざす。なお将来は館外における巡回展示を企画し、地域に根ざした博物館づくりをすすめる。

■文化事業

(ア)講座・講演会

市民への啓蒙を目的として定期的に開催する。

(イ)情報サービス

出版、電話相談等を充実し、市民の自主的な学習の導きとする。なお将来的には「博物館友の会」を組織する。

(ウ)フィールド学習

野外学習、体験学習等を企画し、市民の参加による文化の保存、継承、さらに現代社会への活用の途を積極的に究明する。

(エ)市民ギャラリー

堺市の主催する市展等を開催する。

■調査研究事業

当面、つぎの2本柱で研究をすすめる。

(ア)市内の文化遺産に関する調査研究、ならびに他地域に所在する堺関係の資料収集を年次計画に基いてすすめ、さらにその再評価を通じて、現代社会に活用し、都市文化として定着させる研究を行う。

(イ)中～近世における日本都市文化史研究に寄与することをめざし、関連資料の調査研究につとめる。

つまり当館は、堺の文化史的解明を基礎としながらひろく都市文化研究の全国的なセンターとして機能することをめざすものとする。

■資料収集・保管事業

寄贈、寄託の制度を整え、科学的な管理のもとに内外の文化資財を保管する。